

## ● 編集後記

最近、生活者を主体に医療や健康に関わる団体や個人が連携し適正なセルフメディケーション実現に向けて、「セルフメディケーション推進協議会」がNPO（特定非営利法人）の組織のもと設立された。本号でもその一助となる「一般用医薬品のサイト」などが掲載されている。我が国のセルフメディケーションの原点となる書物の1つに、江戸時代ベストセラーになった貝原益軒の養生訓がある。その本の下りに「人の命は我にあり、天にあらず」という名文があり、これがまさに「自分の健康は自分で守りなさい」ということにいみじくも相当する。はるか300年を経過した現在、時代は進歩し、e-ヘルスビジネスによるITが医療を変える状況を生み出した。ITが医療・健康・福祉を医療消費者本位のサービス業へ変革し、新世紀の社会基盤の一旦を担う革命には変りがないが、情報を受ける際には、情報の質の確認と情報を享受されたことへの敬意という姿勢が実は大切だが、ITの使い方によっては、これらは不完全なままになる。情報提供者と医療消費者の間には、敬う心をもってコミュニケーションを介すことで、情報はより吸収されやすくなり、医療消費者自身が行動を実行させる原動力へもつながる。今年、JASDIも新たに学会へ生まれ変わり、情報にまつわる様々なことに関して今後もっと模索しなくてはならない。そのためにも、まずは会員の皆様方のご活躍をお祈り申しあげる。 (M.I)